

第6回 破壊靱性検討会議事録

1.開催日時：平成16年 9月 1日(水) 13:30～17:00

2.開催場所：航空会館 B102会議室

3.参加者(順不同,敬称略)

委員：富松主査(三菱重工業),平野副主査(石川島播磨重工業),朝田(三菱重工業),
金澤(東芝),古賀(電源開発),小島(日立製作所),曾根田(電力中央研究所),
辻(富士電機),半田(JFEスチール),松本(パブコック日立),平沼(東京電力)
(計11名)

欠席者：大畑(日本原電),山下(神戸製鋼),鈴木(日本製鋼所),中野(関西電力)
(計4名)

代理参加者：鬼沢(日本原子力研究所・鈴木代理),井口(発電設備技術検査協会・佐藤
代理)
(計2名)

事務局：上山,福原(日本電気協会)
(計2名)

4.配付資料

資料No.6-1 第5回破壊靱性検討会議事録(案)

資料No.6-2 米国及び欧州におけるマスターカーブ法の適用と研究動向の開発

資料No.6-3 JEAC4201, JEAC4206改定案 著作権調査

資料No.6-4 破壊靱性に関する規程(JEAC4201, JEAC4206)の課題

参考資料 JEAC4206改定案目次(抜粋)

5.議事

(1)委員定足数の確認

事務局より,委員総数17名に対して本日の出席委員数は13名で、「委員総数の3分の2以上の出席」という会議開催定足数の条件を満たしていることの報告があった。また、富松主査より上記代理出席者の参加について了解が得られた。

(2)前回議事録の確認

資料No.6-1の前回議事録(案)については、1週間以内に持ち帰りコメントいただいた上で、公開の手続きを行うことでの了承された。

(3)米国及び欧州におけるマスターカーブ法の適用と研究動向の開発

資料No.6-2に基づき、曾根田委員より以下の事項を中心に紹介が行われた。

- 概要
- マスターカーブ法の開発
- 米国での基準化(ASME, ASTM)
- 実機への適用(Zion-1/2, Kewaunee, Beaver Valley-1, Point Beach-2, PTS再評価)

- ガイドライン，基準の開発動向（IAEA，米国外の動向，米国の今後の計画）
- 技術的課題（研究動向，今後の課題）

以上の件については、今後の活動課題にかかわる事項であり、各委員に持帰り検討いただくこととなった。

（４）JEAC4201，JEAC4206 改定案発行に伴う著作権手続き準備について

資料 No.6-3 に基づき、富松主査より、JEAC4201，JEAC4206 両改定案作成分担による記載範囲毎に、ASME，ASTM への JEAC 発刊時の Copy Right 手続き必要箇所の抽出を行うこととなった。対象は主に図，表，式として必要箇所をピックアップした上で、10 月 15 日を期限として富松主査及び事務局宛に送付する予定。

（５）破壊靱性検討会の今後の課題

資料 No.6-4 に基づき、検討会の今後の課題について平野副主査より試案が紹介された。そのうち、中期的な課題（２件），長期的な課題（１件）に注目して、必要事項をサーベイした上で、今後の取組み方針をさらに絞り込むこととなった。

【課題 1】マスターカーブ法の調査 / 指針案の作成（中期）

事業者における規格化の必要性について調査・整理が必要。（取り纏め：平沼委員）

【課題 2】監視試験片再生・再装荷に関する指針案の策定（中期）

PLIM H15 成果の検討会審議活用可否について確認を行う。また、規格化に際して必要な検討事項が揃っていることを確認する必要がある。（取り纏め：富松主査）

【課題 3】中性子照射脆化予測式（長期）

（６）JEAC4206 改定案（公衆審査版）の気付き事項について

JEAC4206 改定案について以下 2 件の取扱いが確認された。

- a . 第 3 章 クラス MC 容器の付番が『FE-』となっているが、A,B,C 順に並ばなくてよいか。

現状どおりとする。

- b . 巻末掲載の検討会報告書「PFR-0001-XXXX」，「PFR-7901-XXXX」の下 4 桁の取扱いについて

今回誤記修正が行われた「PFR-0001-XXXX」については今改定年版を、JEAC4206-2000 から変更のない「PFR-7901-XXXX」については従来どおり『2000』と記す。

（７）その他

次回開催は 11 月 25 日（木）pm とし、今後の活動計画等について検討を行う予定。

以 上